

# 秋 峰(しゅうほう)

登録番号：(出願公表番号第13720号)

登録年月日：(出願公表平成14年1月24日)

登録者：(出願者：(独)農業・生物系特定産業技術研究機構)

育成者：壽和夫 斎藤寿広 佐藤義彦  
阿部和幸 正田守幸 鈴木勝征  
梶浦一郎 緒方達志 木原武士  
増田亮一 櫻村芳紀 澤村 豊

栗原昭夫 寺井理治 町田 裕

小園照雄 西端豊英 福田博之

来歴：「筑波」と「524-1」「利平ぐり」×「クリ平塚24号」「片山」×「赤中」の交雑実生

育成地：茨城県つくば市藤本((独)農業・生物系特定産業技術研究機構果樹研究所)

## 特 性

### ■栽培特性

樹姿は開張性で樹勢は中程度、枝梢の発生程度や長さおよび太さも中程度である。開花期は「筑波」および「石鎚」とほぼ同時期で遅いほうである。結果性および雌花の着生性はともに中程度で「筑波」および「石鎚」より若干少ない。きゅう梗の離脱の難易は「石鎚」より優れる。きゅう果の形は扁球で大きさは「筑波」および「石鎚」と比較してやや小さい。きゅう果のとげはやや長く、やや太くて堅い。とげの密度は中程度である。

### ■果実特性

成熟期は「筑波」と「石鎚」の間にあたるが、年によっては「筑波」と重なる場合もある。

果実の形は帯円三角、大きさは23g程度で「石鎚」よりやや小さい。果実の揃いは良いほうである。果皮の色は暗褐色で果面の毛じは多い。座は「筑波」や「石鎚」と比較してやや大きい。果実の比重は「筑波」および「石鎚」よりも高く、果肉は粉質である。果肉の色は黄色で「筑波」および「石鎚」より優れる。甘味、香気はともに多く、食味は「筑波」や「石鎚」など現在の主力品種と比較して優良である。果皮の剥皮の難易および蒸しグりにした場合の渋皮の剥皮の難易はともに「石鎚」と同程度で「筑波」より優れる。

### ■病虫害抵抗性および新培上の留意点

双子果および裂果の発生はともに少なく、営利栽培上問題とはならないと思われる。同枯性病害には強く、実たんそ病抵抗性も強い方である。モモノゴマダラノメイガ等による被害果の発生は「石鎚」より少なく「筑波」と同程度である。

樹勢が強い方ではないので集約的な肥培管理を行うことによって樹勢を高め、収量確保に努めることが重要である。樹姿は開張性であり、省力高品質生産を目的とした低樹高仕立てに適していると考えられる。

なお、台木との組み合わせによっては接ぎ木不親和症状を呈することがあるため注意が必要である。

### ■地域適応性

成熟期は西南暖地では9月下旬、関東地方では9月末～10月初めであり、このため関東以西のクリ生産地帯で「筑波」「石鎚」の収穫期を補完する品種となると考えられる。

果肉色が優れ貯蔵後も果肉色の変化が比較的少ないため、加工品としての利用にも適していると考えられる。

(澤村 豊)